

21世紀のキーワード 「もったいない」

10月は3R推進月間です!



毎日たくさんのおきびんが集まってきます

ごみは、私たちが生活していくうえで必ず出てくるものです。これらを処理するための関係予算に市では年間約20億円を計上しています。家庭から出るごみの量が減れば、処理経費も少なくなるばかりか、処理施設にも負荷をかけず、環境への影響を軽減することにつながります。しかし、ごみの軽減を図るためには、市民皆さん一人ひとりのご協力が必要です。10月は「3R推進月間」です。この機会に、ご家庭から出す身近なごみについて話し合ってみてください。

環境保護

「Reduce」

ワンガリ・マータイさんという女性をご存知でしょうか。ケニア副環境大臣で、今年2月に来日した際、「もったいない」という日本語を知り、世界に広めている女性です。翌3月4日、マータイさんは、国連の「女性の地位委員会」閣僚級会合で演説し、「もったいない」を環境保護の合言葉として紹介されました。

私たちの生活は、経済の発展に伴って大量生産、大量消費の時代に入り、使い捨てが当たり前のようになって、いつの間にか「もったいない」という概念が置き去りにされてしまっていることを気付かせてくれるマータイさんの言葉です。

いうことは再資源として活用するために欠かすことはできません。

今回は3Rの優等生といわれるガラスびんのリサイクルについてご紹介いたします。

世界各国に静かに広まる「もったいない」という言葉が毎日の生活の中で失われぬように、ごみの分別・再利用・リサイクルの3Rにご協力ください。

3Rの優等生

「Reduce」

現在、ガラスびんはお酒、ジュースなど様々なものに使われています。その中でもビールや牛乳などのびんはほぼ100%が回収され、もう一度中身が入られて再利用されます。再利用されるガラスびんは「リターナブルびん」と言われ、廃棄物発生抑制や資源の有効利用に大きく貢献し、リサイクルの優等生となっています。

3Rを実践!

1 Reduce

資源を大切にしておみ減らそう

現在、各種の製造メーカーによるガラスびんの軽量化が進められています。これはびんの製造時の原料と燃焼エネルギーを節約できるためです。さらに地球温暖化の原因である二酸化炭素の発生量の削減にもつながります。

2 Reuse

繰り返し使おう

牛乳びんやビールびんなどのリターナブルびんは、リサイクルや環境問題という言葉

3 Recycle

再生利用しよう

現在では、びんの再利用以外にも様々な場面での他用途利用に注目が集まっています。特に最近注目されているのは、アスファルト舗装への利用です。道路で太陽の光が反射し、きらきら光っているのをご覧になった方もあるでしょう。ガラスの特性である輝きを利用したドライバーへの事故防止対策です。

環境に

役立つ容器

「Reduce」

このようにガラスびんは再使用、再利用、他用途利用という3つの要素を含んだ環境にやさしい容器です。

甲賀市が発足して、早1年が経過しようとしています。この間、市では旧町それぞれのごみ出しルールを統一し、収集処分を進めてきました。しかし、ごみの種類によっては、今までの分け方、出し方とは異なる地域があり、市民の方々からの戸惑いの声をよく耳にします。

その中でも、ガラスびんは4月から一部ルールが変更されました。

どうして

びんは、はがさないかも良くなったの?

「Reduce」

合併前、一部の地域では、ラベルはがしを願っていました。が、カレット工場での処理工程でも問題がないことや、家庭でラベルをはがすのに水道水を使ったり、そのラベルを下水道施設に流入させたりすることで、新たな問題が発生してることと併せ、リサイクル過程においても処理できることから、ラベルを付けたまま出していただくのも良いこととしました。市があきびんの処理を委託している東洋カレット(株)滋賀工場の工場長である北川さんにお話を伺いました。



東洋カレット(株) 滋賀工場
工場長 北川 慎太郎 さん

ラベルは、そのままでも問題ありません

空きびんのリサイクルについては、びんの造り手側であるメーカーも今までのびんに比べてより剥がしやすい糊や、剥がしやすいラベルへの移行を進めてもらっていることで協力していただいています。

また当工場ではラベルを剥がす機械を導入し、水処理によるラベル処理をしています。以前に比べて工場の設備的なラベルの剥離能力が向上しています。こういったことからラベルを市民の皆さんに剥がしていただく必要はありません。

リサイクルを進める上で一番問題になるには、鍋のふたなどに使用される耐熱ガラスや茶碗や湯のみ、コーヒーカップなどの陶磁器類が排出する際に混ざっていること。このような物が混ざっているとびんを再利用する生産過程で機械が壊れてしまう恐れがありますので各家庭では分別をしっかりと行ってください。

これだけは守ろう!!

あきびんルール

1 キャップをきる

●アルミキャップや王冠などが付いたまま排出されると、ガラスびんをつくるときに溶けずに残り、ガラスびんの強度を低下させます。必ずキャップ等を外して出してください。

●外れにくい中栓は外さず、そのまま排出してください。



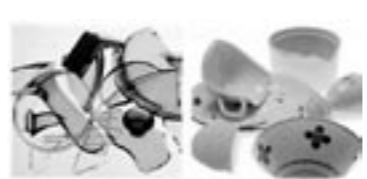
2 中をさっと洗う



●あきびんに中身が残って汚れていると、リサイクルの工程で悪臭が発生して、非常に不衛生です。中身を出して、中を軽くゆすいでください。

●ラベルは、はがさなくて結構です。

3 あきびん以外のものを混ぜない



●ガラス製品でも、ナベや皿などの耐熱ガラスは、混ぜると欠陥びんの原因になります。

●茶碗や湯のみ、コーヒーカップなどの陶磁器類は、びんの強度を大きく低下させます。

●農薬や劇薬が入ったびんは、資源化の過程において有毒なガスが発生するおそれがあります。

●クリスタルガラス製のコップや灰皿、また電球や蛍光灯なども混ぜないでください。

4 色別に分ける



●無色、茶色、その他の色(青、緑、黒色)に分けてください。

●容器包装リサイクル法では、あきびんを分別収集する際、少なくとも「無色、茶色、その他の色」の3色に分けることが定められています。

●無色は無色びん、茶色は茶色びんとして、その他の色(青、緑、黒)は、青色びん、緑色びん、黒色びんのほか、茶色びんの濃淡をつけるのにも使用されます。

【問い合わせ】

環境課 ☎ 65-0690
FAX 63-4582